

PAT-NO: JP410046844A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10046844 A

TITLE: BOOTH FOR SERVICE EQUIPMENT AND SHIFTER FOR
SERVICE EQUIPMENT

PUBN-DATE: February 17, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

SUGIURA, AKIO

INT-CL (IPC): E04H001/12, G07F009/10

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To keep burglarproofness for a booth for an automated teller machine(ATM), and to improve the efficiency of a space and the workability of practical use and maintenance and inspection.

SOLUTION: The shifter 20 moving an ATM 1 before and behind is installed into an opening 15 largely opened to a partition wall 14 partitioning the main body 11 of the booth 10 for the ATE into a guest room 12 and a machine room 13, and a closing plate 16 closing the external region of the opening is fixed into the ATM 1. The shifter 20 has a base 21 laid on the floor 19 of the opening 15 and a moving table moved on a base, on which the ATM 1 is loaded, before and behind, an upper- stage traveling road surface is formed in the overall length of the base 21, a lower- stage traveling road surface is formed at an end section on the guest room side, an upper-stage wheel traveling on the upper-stage traveling road surface is disposed at an end section on the machine room side of the moving table, and a lower-stage wheel traveling on the lower-stage traveling road surface is arranged at the end section on the guest room side. Accordingly, since the ATM 1 is largely moved forward, the efficiency of a space and workability are improved. Since the ATM is housed in

the machine room at the time of retreat, burglarproofness can be maintained.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-46844

(43) 公開日 平成10年(1998) 2月17日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
E 0 4 H 1/12			E 0 4 H 1/12	A
G 0 7 F 9/10			G 0 7 F 9/10	A

審査請求 未請求 請求項の数 6 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平8-219165

(22) 出願日 平成8年(1996) 8月1日

(71) 出願人 000127282

株式会社イトーキ

大阪府大阪市中央区淡路町1丁目6番11号

(72) 発明者 杉浦 晃男

大阪府大阪市中央区淡路町1丁目6番11号

株式会社イトーキ内

(74) 代理人 弁理士 梶原 辰也

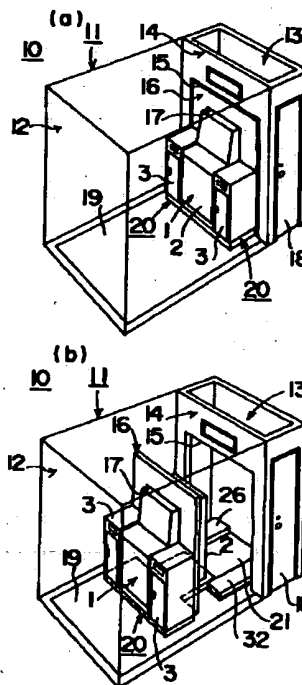
(54) 【発明の名称】 サービス機器用ブースおよびサービス機器用移動装置

(57) 【要約】

【課題】 防犯性を維持しスペース効率、運用や保守点検の作業性を高める。

【解決手段】 ATM用ブース10の本体11を客室12と機械室13に仕切る隔壁14に大きく開設された開口15にはATM1を前後動させる移動装置20が設備され、ATM1には開口の外側領域を閉塞する閉塞板16が固定される。移動装置20は開口15の床19に敷設されたベース21と、ATM1が搭載されベース上を前後動する移動テーブル50とを備え、ベース21の全長には上段走行路面24が形成され、客室側端部には下段走行路面25が形成され、移動テーブル50の機械室側端部に上段走行路面24を走行する上段車輪57が配され、客室側端部に下段走行路面25を走行する下段車輪59が配されている。

【効果】 ATMが大きく前進できるため、スペース効率や作業性が高まる。後退時にATMは機械室に格納されるため、防犯性は維持できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ブース本体を客室と機械室とに仕切っている隔壁にサービス機器の正面投影面よりも大きい開口が開設されており、この開口にはサービス機器が前記客室と前記機械室間に跨がって前後動自在に配設されているとともに、このサービス機器には前記開口におけるサービス機器の外側領域を閉塞する閉塞板が固定されていることを特徴とするサービス機器用ブース。

【請求項2】 前記機械室側に後退された状態において、前記サービス機器の背面が前記機械室の対向面に実質的に当接することを特徴とする請求項1に記載のサービス機器用ブース。

【請求項3】 ブース本体を客室と機械室とに仕切っている隔壁に開設された開口を跨いでブース本体の床に敷設されているベースと、このベースの上に前後動自在に配設されておりサービス機器が搭載される移動テーブルとを備えているサービス機器用移動装置において、前記ベースには上段走行路面が前記移動テーブルの前後動行程に実質的に等しくなるように形成されているとともに、前記ベースの客室側端部には下段走行路面を形成する段差部が形成されており、前記移動テーブルの機械室側端部には前記上段走行路面を走行する上段走行部材が配設されているとともに、前記移動テーブルの客室側端部には前記下段走行路面を走行する下段走行部材が配設されていることを特徴とするサービス機器用移動装置。

【請求項4】 前記段差が前記ベースの一部に形成された切欠部によって構成され、前記下段走行路面の一部が切欠部の下の露出面によって構成されており、前記下段走行部材が前記移動テーブルの前後動に伴って前記下段走行路面を転動する車輪によって構成されていることを特徴とする請求項3に記載のサービス機器用移動装置。

【請求項5】 前記上段走行部材が前記上段走行路面を転動する車輪によって構成されていることを特徴とする請求項3または4に記載のサービス機器用移動装置。

【請求項6】 前記移動テーブルにラックが前後方向に敷設され、このラックにモータによって回転されるピニオンが噛合されており、前記モータが電磁クラッチによって切り離し自在に構成されていることを特徴とする請求項3、4または5に記載のサービス機器用移動装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、サービス機器用ブースおよびそれに使用されるサービス機器用移動装置に関し、特に、防犯、スペース効率および運用や保守点検作業性を高める技術に係り、例えば、自動現金取扱機（以下、ATMという。）のためのブースや移動装置に利用して有効な技術に関する。

【0002】

【従来の技術】従来のこの種のブースとして、実公平7 50

ー18850号公報に提案されているように、機械室と客室とが操作口を残して区画形成されたブース本体の操作口にサービス機器が機械室と客室間にスライド可能に配設されており、機械室の側壁にドアが機械室に格納されたサービス機器の側面によって開放が阻止されるように設けられているサービス機器用ブースがある。

【0003】また、従来のこの種のブースに使用されるサービス機器用移動装置は、前記公報に提案されているように、操作口にスライド可能に配設されたサービス機器自体によって操作口が塞がれるようになっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記したような従来のサービス機器用ブースにおいては、操作口にスライド可能に配設されたサービス機器自体によって操作口が塞がれるようになっているため、防犯上、サービス機器のスライド可能なストローク量が抑制されるという問題点がある。サービス機器のスライド量が短いと、サービス機器の保守点検作業時にサービス機器の背面空間に必要な空間が狭くなるため、保守点検作業の作業性が低下する。この作業性の低下を防止するために、機械室を広く設定すると、その分、ブースの客室のスペースが狭くなる。

【0005】本発明の目的は、防犯性を維持しつつ、スペース効率および運用や保守点検作業性を高めることができるサービス機器用ブースおよびサービス機器用移動装置を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明に係るサービス機器用ブースは、ブース本体を客室と機械室とに仕切っている隔壁にサービス機器の正面投影面よりも大きい開口が開設されており、この開口にはサービス機器が前記客室と前記機械室間に跨がって前後動自在に配設されているとともに、このサービス機器には前記開口におけるサービス機器の外側領域を閉塞する閉塞板が固定されていることを特徴とする。

【0007】本発明に係るサービス機器用移動装置は、ブース本体を客室と機械室とに仕切っている隔壁に開設された開口を跨いでブース本体の床に敷設されているベースと、このベースの上に前後動自在に配設されておりサービス機器が搭載される移動テーブルとを備えているサービス機器用移動装置において、前記ベースには上段走行路面が前記移動テーブルの前後動行程に実質的に等しくなるように形成されているとともに、前記ベースの客室側端部には下段走行路面を形成する段差部が形成されており、前記移動テーブルの機械室側端部には前記上段走行路面を走行する上段走行部材が配設されているとともに、前記移動テーブルの客室側端部には前記下段走行路面を走行する下段走行部材が配設されていることを特徴とする。

【0008】前記したサービス機器用ブースによれば、

閉塞板がサービス機器と一緒に前進するため、サービス機器の前進ストロークを大きく設定することにより、サービス機器の背面側に形成される空間を広く設定することができる。前進によってサービス機器の背面空間を広くすることができる分、運用や保守点検作業のために必要な空間を十分に確保しつつ、機械室を狭く設定することができるため、その分、客室を広く設定することができる。

【0009】前記したサービス機器用移動装置によれば、テーブルの前進時に、テーブルの客室側端部に配設された下段走行部材が下段走行路面を走行するため、テーブルの高さを一定に維持したままの状態、テーブルを大きく前進させることができる。テーブルの前進によってサービス機器の背面側に形成される空間を広く確保することができるため、運用や保守点検作業のために必要な空間を十分に確保しつつ、機械室を狭く設定することができるため、その分、客室を広く設定することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】図1は本発明の一実施形態であるATM用ブースを示しており、(a)は使用時の一部省略斜視図、(b)は保守点検時の一部省略斜視図である。図2は本発明の一実施形態であるATM用移動装置を示しており、後退時の一部省略斜視図である。図3は同じく前進時の一部省略斜視図である。図4は図2のIV-IV線に沿う正面断面図である。図5は図2のV-V線に沿う側面断面図である。

【0011】本実施形態において、本発明に係るサービス機器用ブースはATM用ブースとして構成されており、本発明に係るサービス機器用移動装置はATM用移動装置として構成されている。サービス機器の一例であるATM1はATM本体2と、ATM本体2の左右に配置された一対のサブユニット3、3とから構成されている。ATM本体2の全体形状は奥行き方向が間口よりも長い直方体の上に、間口が同一の略正六面体が背面を一致されて重ねられた箱形状に形成されており、内部に現金収納部(図示せず)が設けられ、正面に操作パネルおよび現金出し入れ口(いずれも図示せず)が設けられている。サブユニット3はテーブルを兼用する屑かご等から構成されている。

【0012】ATM用ブース10は平面視が長方形の箱形状に建築されたブース本体11を備えており、ブース本体11の内部室は隔壁14によって客室12と機械室13とに仕切られている。機械室13の奥行きは人間が立って入れる程度の最小寸法(例えば、500mm程度)に設定されている。つまり、機械室13の奥行きが最小寸法に設定されている分だけ、客室12の奥行きが広く設定されていることになるため、ATMを利用する顧客に対するサービス性が向上されていることになる。

【0013】ブース本体11を客室12と機械室13に

仕切っている隔壁14には開口15が、間口がATM1の横幅と略等しく高さがATM1よりも高くなるように開設されている。開口15にはATM1がATM用移動装置20に搭載された状態で配設されており、ATM1はATM用移動装置20によって機械室13に対して進退されるようになっている。ATM1には開口15のATM1の外側領域を閉塞するための閉塞板16が固定されている。すなわち、閉塞板16は外形が開口15の内形と略等しい長方形のパネル形状に形成されており、中央部にはATM本体2を逃げる切欠部17が下端辺から長方形に切り込まれている。閉塞板16は切欠部17にATM本体2を下側から挿入された状態でATM1の中間部に直角に装着されて、かつ、左右のサブユニット3、3の背面に当接され、ATM本体2、左右のサブユニット3、3およびATM用移動装置20の一部に適当な固定手段によって適宜に固定されている。

【0014】ブース本体11における機械室13の側壁には細長い扉18が開閉自在に取り付けられており、扉18はブース本体11の外部から施錠および解錠し得るように構成されている。ブース本体11の床19には比較的硬質の化粧板が敷設されている。

【0015】ATM用移動装置20は機械室13の床19の上に設置されており、一部は客室12の機械室13との境界領域に達した状態になっている。ATM用移動装置20は床19に固定されるベース21と、ベース21の上を前後動する移動テーブル50とを備えている。ベース21は鉄板等の機械的強度を有する材料が使用されて略正方形の平板形状に形成されており、開口15の床19に機械室13から客室12に跨がるように敷設されている。ベース21の客室12側端部(以下、前端部とする。)には一対の切欠部22、22が、左右対称形に配置されて前端辺から後方に向けて直角にそれぞれ開設されている。各切欠部22によってベース21には段差23が形成された状態になっており、この段差23の上段となるベース21の上面によって上段走行路面24が構成されているとともに、段差23の下段となる切欠部22の底面によって下段走行路面25が構成されている。下段走行路面25を構成する切欠部22の底面は床19の露出面によって構成されているため、下段走行路面25は床19の上面によって実質的に構成された状態になっている。

【0016】ベース21の上面における左側端部には前後方向に長い平盤状の箱形状に構築された左サイド台26が、前後方向の全長に渡って敷設されている。左サイド台26の内部にはガイドローラ27が複数個、前後方向に間隔を置かれて水平面内で回転し得るように垂直軸によって軸支されており、各ガイドローラ27は左サイド台26の右側側壁から露出して移動テーブル50の左側面に転動自在にそれぞれ外接されている。つまり、各ガイドローラ27は移動テーブル50の移動中にその左

側面を相対的に転動することによって移動テーブル50の前後動を案内するように構成されている。

【0017】左サイド台26の前端部には反射形ホトセンサから構成された前側センサ28が水平方向右向きに設置されており、前側センサ28は移動テーブル50の左側壁の前後端部に開設された被検査部としての小孔29、31を検出するようになっている。左サイド台26の後端部には反射形ホトセンサから構成された後側センサ30が水平方向右向きに設置されており、後側センサ30は移動テーブル50の左側壁の後端部に開設された被検査部としての小孔31を検出するようになっている。前側センサ28および後側センサ30は後記するモータの駆動電気回路(図示せず)に電気的に接続されており、各小孔29および31をそれぞれ検出した時にモータを停止させるように構成されている。

【0018】ベース21の上面における右側端部には前後方向に長い平盤状の箱形状に構築された右サイド台32が、前後方向の全長に渡って敷設されている。右サイド台32の後端部における内部室にはガイドローラ27が複数個、前後方向に間隔を置かれて配置され、水平面内で回転し得るように垂直軸によって軸支されており、ガイドローラ27は右サイド台32の左側側壁から露出して移動テーブル50の右側面または後記するラックに転動自在にそれぞれ外接されている。

【0019】右サイド台32の後端部にはモータ取付台33が上向きに立設されており、モータ取付台33の上にはモータ34が下向きに据え付けられている。モータ34の回転軸34aはモータ取付台33の内部に挿入されており、回転軸34aには電磁クラッチ35が装備されている。電磁クラッチ35の出力軸35aは垂直方向下向きに突出されており、右サイド台32の内部室底面上に設備された軸受部材36によって回転自在に支承されている。電磁クラッチ35は電源スイッチ(図示せず)がオンされている状態において、出力軸35aをモータ34の回転軸34aに常時連結させ、電源スイッチがオフされた状態において、出力軸35aとモータ34の回転軸34aとの連結を解除させるように構成されている。電磁クラッチ35の出力軸35aには駆動側スプロケット37が直交するように配されて固定されている。

【0020】他方、右サイド台32の内部室の前端部には支軸40が垂直に立脚固定されており、支軸40の上端部外周には被動側スプロケット38が直交するように嵌合されて回転自在に支承されている。駆動側スプロケット37と被動側スプロケット38との間にはチェーン39が張設されており、チェーン39は駆動側スプロケット37の回転力を被動側スプロケット38に伝達するようになっている。右サイド台32の内部室における中間部にはテンションローラ41が複数個、チェーン39に沿って間隔を置かれて水平面内で回転し得るよう

に直軸によって回転自在にそれぞれ支承されており、各テンションローラ41はチェーン39に転動自在に外接することによってチェーン39のテンションを適度に調整するようになっている。

【0021】支軸40の下端部にはピニオン42が直交するように嵌合されて回転自在に支承されており、ピニオン42は被動側スプロケット38と一体回転するように構成されている。ピニオン42は右サイド台32の左側側壁から露出して移動テーブル50の右側面に添着されたラック43に噛合されている。

【0022】移動テーブル50はベース21上に左サイド台26と右サイド台32との間に挟まれるようにして前後動自在に設置され、ピニオン42およびラック43を介してモータ34によって前後に駆動されるようになっている。すなわち、移動テーブル50は鉄板等の機械的強度の大きい材料が使用されて、長さがベース21の前後方向長さと同程度しく横幅が左サイド台26と右サイド台32との間口と同程度しい正方形であって下面が開口した底の浅い箱形状に形成されており、左サイド台26と右サイド台32との間に建て込まれている。

【0023】左サイド台26と右サイド台32との間に建て込まれた移動テーブル50の下面とベース21の上面との間には一対のリニア・ボールベアリング51、51が、左右両端部において前後方向に延在するように介設されており、両リニア・ボールベアリング51、51によって移動テーブル50は左右方向の振れおよび上方への抜けを防止されるようになっている。リニア・ボールベアリング51は複数個のボール52を保持するブロック53と、ブロック53にボール52群を介して摺動自在に支承されるレール54とを備えており、ブロック53がベース21の上面に固定され、レール54が移動テーブル50の下面に前後方向の全長に敷設されるようになっている。

【0024】移動テーブル50の下面における左右方向の中央部にはアングル型鋼が使用されて形成されたブラケット55が一対、左右対称形に配されて前後方向に延在するように敷設されている。各ブラケット55の後側半分には上段支軸56が複数本、前後方向に間隔を置かれて水平方向外向きにそれぞれ突設されており、各上段支軸56には上段走行部材としての上段車輪57が回転自在にそれぞれ支承されている。各上段車輪57はベース21に構成された前記上段走行路面24にこれを転動するように外接されている。したがって、上段車輪57群は移動テーブル50の荷重をベース21を介して床19に反力を求めて支えるようになっている。

【0025】各ブラケット55の前側半分には下段支軸58が複数本、上段支軸56の高さよりもベース21の厚さ分だけ低い位置において前後方向に間隔を置かれて水平方向内向きにそれぞれ突設されており、各下段支軸58には下段走行部材としての下段車輪59が回転自在

にそれぞれ支承されている。各下段車輪59はベース21に構成された前記下段走行路面25にこれを転動するように外接されている。ちなみに、下段車輪59と上段車輪57とは同一の外径を有するが、下段支軸58が上段支軸56よりもベース21の厚さ分だけ低い位置に支承されているため、ベース21に切欠部22を切設されて構成された下段走行路面25に下段車輪59は外接することができる。したがって、下段車輪59群は移動テーブル50の荷重を床19に反力を求めて支えるようになっている。

【0026】移動テーブル50の右側面にはラック43が前後方向に延在するように固定されており、ラック43の歯列にはピニオン42の歯列が噛合されている。ピニオン42の回転に伴ってラック43が前後方向に送られることにより、移動テーブル50は前後方向に駆動されるようになっている。

【0027】移動テーブル50の前面には反射形ホトセンサによって構成された衝突防止センサ60が複数基、左右方向に間隔を置かれて配設されている。各衝突防止センサ60はモータ34の駆動電気回路に接続されており、移動テーブル50の移動中に移動テーブル50の前方に人間の足等の障害物を検出した時に、モータ34の運転を停止させるように構成されている。

【0028】移動テーブル50の上面にはプレート61が載置されてビス（図示せず）等によって固定されている。本実施形態において、プレート61は平面視がT字形状に形成されており、T字形状の下端側が移動テーブル50の後端側に向けられて移動テーブル50に設置されている。プレート61の長さ（T字の高さ）は移動テーブル50の前後方向の長さと同しく設定され、プレート61のT字形状における横部片の横幅は左サイド台26の左端と右サイド台32の右端との間隔と同しく設定されている。移動テーブル50の上面に固定された状態において、プレート61の上にはATM1が搭載されて固定される。すなわち、ATM1はATM本体2が移動テーブル50に乗った状態になり、左右のサブユニット3、3がプレート61のT字形状の横部片における移動テーブル50の左右両脇にそれぞれ乗った状態になる。

【0029】次に作用を説明する。ATM用ブース10の稼動に際しては、移動テーブル50は機械室13内に格納されるように後退されている。この格納状態において、移動テーブル50に搭載されたATM本体2の背面は機械室13の対向する内面に殆ど接触した状態になっている。万一、機械室13の扉18が不測に開放状態になったとしても、ATM本体2の背面が機械室13の内面によって押さえられた状態になっているため、ATM本体2の現金収納部から現金が不慮に取り出される事態は確実に防止することができる。

【0030】移動テーブル50の後退状態において、移動テーブル50の前側半分において軸架された下段車輪

59群は切欠部22に進入した状態で下段走行路面25に支持された状態になっている。また、移動テーブル50の後側半分において軸架された上段車輪57群はベース21の後側半分における上面で構成された上段走行路面24に支持された状態になっている。したがって、移動テーブル50は上段車輪57群および下段車輪59群によって全体に渡って均等に支持された状態になっている。

【0031】ATM本体2の現金収納部への現金の出し入れ等の運用作業や、ATM本体2の保守点検作業に際しては、移動テーブル50は機械室13内から引き出されるように前進される。この際、作業者は機械室13の扉18を解錠して開放し、移動テーブル50を機械的にロックしている錠を解除した後に、モータ34の前進用駆動スイッチ（図示せず）をオンさせる。

【0032】モータ34が正回転されると、駆動側スプロケット37が電磁クラッチ35を介して回転されるため、被動側スプロケット38がチェーン39を介して回転される。被動側スプロケット38の回転に伴ってピニオン42が回転すると、ラック43を介して移動テーブル50が前進される。移動テーブル50が前進して前側センサ28によって移動テーブル50の後端部に開設された小孔29が検出されると、モータ34は自動的に停止されるため、移動テーブル50は前進状態で停止された状態になる。

【0033】この状態において、移動テーブル50は後端がベース21の前端付近に至るまで前進されているため、移動テーブル50に搭載されたATM1は機械室13から全体的に露出された状態になる。したがって、ATM本体2の現金収納部への現金の出し入れ等の運用作業やATM本体2の保守点検作業は、きわめて実施し易い。

【0034】移動テーブル50の前進状態において、移動テーブル50の前側半分において軸架された下段車輪59群は切欠部22から飛び出してベース21の前方における床19によって構成される下段走行路面25に支持された状態になっている。また、移動テーブル50の後側半分において軸架された上段車輪57群はベース21の前側半分における上面で構成された上段走行路面24に支持された状態になっている。したがって、移動テーブル50は上段車輪57群および下段車輪59群によって全体に渡って均等に支持されて水平を維持された状態になっている。移動テーブル50は上段車輪57群および下段車輪59群によって水平を維持することができるため、各リニア・ボールベアリング51には不正な力は作用しない。

【0035】作業終了後に移動テーブル50が機械室13に格納されるに際しては、作業者はモータ34の後退用スイッチ（図示せず）をオンさせる。モータ34が前記とは逆方向に回転されると、駆動側スプロケット37

が電磁クラッチ35を介して逆回転されるため、被動側スプロケット38がチェーン39を介して前記とは逆方向に回転される。被動側スプロケット38の回転に伴ってピニオン42が前記とは逆方向に回転すると、ラック43を介して移動テーブル50が後退される。移動テーブル50が後退して前側センサ28および後側センサ30によって移動テーブル50の前後端部に開設された小孔29、31が検出されると、モータ34は自動的に停止されるため、移動テーブル50は前進状態で停止された状態になる。この後退状態において、ATM1は機械室13に格納された元の状態に復帰されることになる。

【0036】なお、本発明は前記実施形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲において、種々変更可能であることはいうまでもない。

【0037】例えば、上段走行部材および下段走行部材は車輪によって構成するに限らず、上段走行路面および下段走行路面を滑る滑り部材等によって構成してもよい。

【0038】ブースはATMを1台だけ設備するように構成するに限らず、2台以上のATMを横に並べた状態で設備するように構成してもよい。

【0039】移動テーブルの上でATMを支持するためのプレートはT字形状に形成するに限らず、L字形状に形成してよいし、省略して移動テーブルによってATMを直接的に支持するように構成してもよい。

【0040】移動テーブルに搭載するサービス機器は、ATMに限らず、キャッシング・ディスペンス(CD)や自動両替機等であってもよい。

【0041】

【発明の効果】以上説明したように、隔壁の開口を閉塞する閉塞板をサービス機器に固定することにより、閉塞板がサービス機器と一緒に前進するため、サービス機器の前進ストロークを大きく設定することにより、サービス機器の背面側に形成される空間を広く設定することができる。前進によってサービス機器の背面空間を広くすることができる分、運用や保守点検作業のために必要な空間を十分に確保しつつ、機械室を狭く設定することができるため、その分、客室を広く設定することができる。

【0042】ベースに上段走行路面をテーブルの前後動行程に実質的に等しくなるように形成するとともに、ベースの客室側端部に下段走行路面を形成する段差部を形

成し、テーブルの機械室側端部に上段走行路面を走行する上段走行部材を配設するとともに、テーブルの客室側端部に下段走行路面を走行する下段走行部材を配設することにより、テーブルの前進時にテーブルの客室側端部に配設された下段走行部材が下段走行路面を走行するため、テーブルの高さを一定に維持したままの状態、テーブルを大きく前進させることができる。テーブルの前進によってサービス機器の背面側に形成される空間を広く確保することができるため、運用や保守点検作業のために必要な空間を十分に確保しつつ、機械室を狭く設定することができるため、その分、客室を広く設定することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態であるATM用ブースを示しており、(a)は使用時の一部省略斜視図、(b)は保守点検時の一部省略斜視図である。

【図2】本発明の一実施形態であるATM用移動装置を示しており、後退時の一部省略斜視図である。

【図3】同じく前進時の一部省略斜視図である。

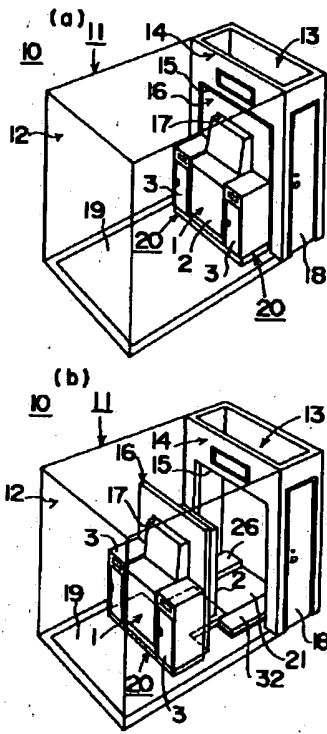
【図4】図2のIV-IV線に沿う正面断面図である。

【図5】図2のV-V線に沿う側面断面図である。

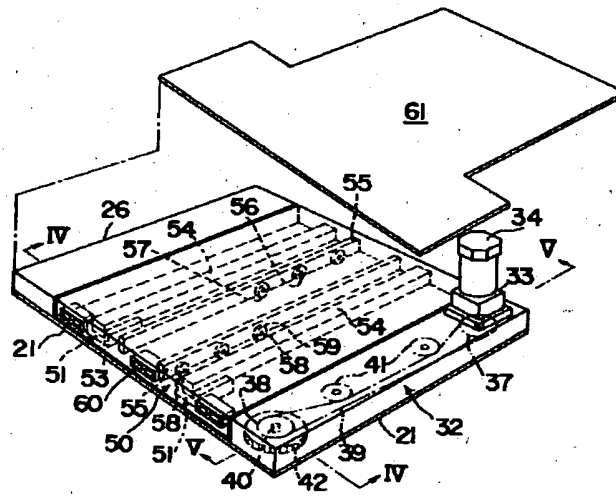
【符号の説明】

1…ATM(サービス機器)、2…ATM本体、3…サブユニット、10…ATM用ブース(サービス機器用ブース)、11…ブース本体、12…客室、13…機械室、14…隔壁、15…開口、16…閉塞板、17…切欠部、18…扉、19…床、20…ATM用移動装置(サービス機器用移動装置)、21…ベース、22…切欠部、23…段差、24…上段走行路面、25…下段走行路面、26…左サイド台、27…ガイドローラ、28…前側センサ、29…小孔(被検査部)、30…後側センサ、31…小孔(被検査部)、32…右サイド台、33…モータ取付台、34…モータ、34a…回転軸、35…電磁クラッチ、35a…出力軸、36…軸受部材、37…駆動側スプロケット、38…被動側スプロケット、39…チェーン、40…支軸、41…テンションローラ、42…ピニオン、43…ラック、50…移動テーブル、51…リニア・ボールベアリング、52…ボール、53…ブロック、54…レール、55…ブラケット、56…上段支軸、57…上段車輪(上段走行部材)、58…下段支軸、59…下段車輪(下段走行部材)、60…衝突防止センサ、61…プレート。

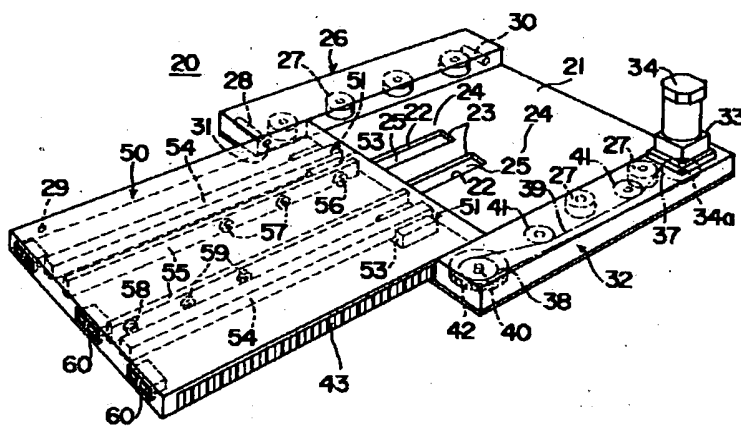
【図1】



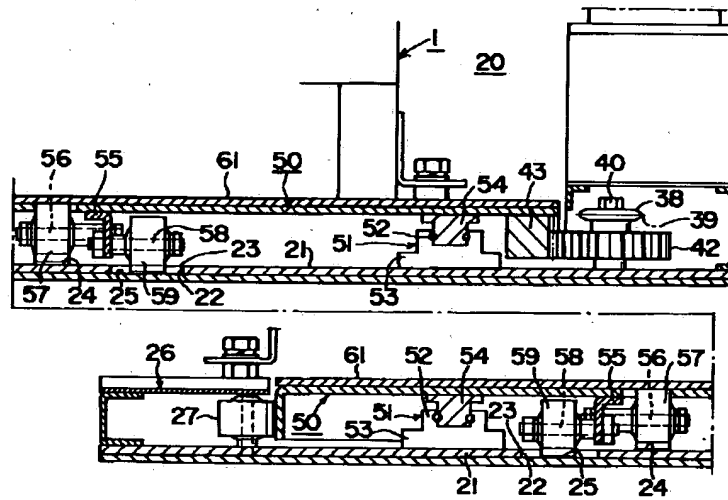
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

